

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
異文化間コミュニケーション I Intercultural Communication I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
佐藤秀一	本館 2階	火曜日、水曜日の11時から14時(授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
英語コミュニケーションを理解する上で大切にすることは、その国に住んでいる人々の生活、社会事情、歴史、あるいは文化を互いに理解し合うことで、そのことで異文化への理解は深まる。その上での相手国の人々との間のコミュニケーションに意思伝達内容を豊かなものにする。この授業では異文化における人間の心の奥底に流れる思い、考え、特に心の接点と言葉の内容について考える。				
授業の目標				
①英語圏、特にアメリカについての生活、社会事情等について知識のある意見を述べるができるようにする。 ②自分の思い・考えを相手に伝えることができるようにする。 ③言葉の内容を深く理解することができるようにする。				
授業の方法				
授業の進め方は、講義と演習の形式を併用して行う。毎回の授業はテキストを中心に進めていくが、時には、プリントを配布し講義を行う。また、必要な場合DVDを鑑賞しテーマについて確認する。受講生の人数にもよるが何人かの幾つかのグループを作り、テーマに沿ってディスカッションし、自分で整理したものを英語でクラス全体の前で発表する。				
学習の成果(学習成果)				
この授業を履修すると、あなたは ①相手国、特にアメリカに住んでいる人々の生活、文化的価値観等を理解することができる。 ②英語によるコミュニケーションがスムーズにできる。 ③英語によるプレゼンテーションをすることができる。 ④話し相手の立場になって考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明 レポートのテーマ及び提出期限等の説明 (担当:佐藤秀一)			
第2回目	Culture 1.What is Culture? 2. Who is More Japanese?—Cultural Identity			
第3回目	3. Cultural Wisdom —Hidden Culture Stereotypes 4.Description/Interpretation/Evaluation			
第4回目	5. Stereotypes about Japan 6. Stereotypes about People from Other Countries			
第5回目	Verbal Communication 7. Words and Meaning 8. Translation Troubles			
第6回目	Non-verbal Communication 9. Hand Gestures in Various Cultures 10. Personal Space			

第7回目	Diversity 11. Multiculturalism in Japan 12. Multicultural Contact Chart		
第8回目	Perception 13. What DO You See? Try it 1, Try it 2 Discussion Expand		
第9回目	14. Smiles in Culture Warm-up Try it 1, Try it 2 Discussion Expand		
第10回目	Communication Styles 15. Your Communication Style Warm-up Try it 1, Try it 2		
第11回目	16. Secrets! 1. Whom do you feel comfortable talking to? 2. What subjects do you consider private?		
第12回目	Beliefs & Values 1 What's Important to you? 1. What personal values do you share with your friends?		
第13回目	Beliefs & Values 2 Cross-cultural Values 1. What are some "typical" Japanese values?		
第14回目	Culture Shock 19 Advice to People from Other Cultures レポート(提出は15回目の授業日)		
第15回目	20. Experiencing Culture Shock 総まとめ		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		30%	予習をして出席している。ディスカッションで積極的に意見を述べる。自分の考えをノートにまとめ理解しやすいように発表する。
レポート		30%	課題をよく理解し、詳細に探求し、課題の要件を十分に満たしている。
調査報告書			
小テスト		20%	課題をよく理解し、正確に解答している。
試験			
発表内容(態度含む)		20%	創意にあふれ、独自の考えを明瞭に述べている。
その他			
教科書と参考図書			
"Culture in Action" Classroom Activities for Cultural Awareness カルチャー イン アクション—教室での異文化体験(南雲堂)			
履修上の留意点・ルール			
目的意識をもって、授業に積極的に参加すること。遅刻、飲食物持ち込み厳禁。			